THE PRESS ザプレス 国際高

発行所
富山市願海寺水口444番地
富山国際大学付属高等学校
新聞部
ホームページアドレス：https://www.tuins-h.ed.jp
印刷所　北日本印刷株式会社

2023年の目標

1年生 なりたい自分見つける
2年生 計画通りに物事進める
3年生 将来の夢実現させる

楽しく充実した年に

国際生＆先生 恒例 新年アンケート

3年生 昨年の漢字は「忙」

2023年がスタートした。新年の初めということで、皆さんは今年の目標などを考えていることだろう。そこで、新聞部は毎年恒例、国際生と先生に今年の目標や、2022年を振り返ってどのような年だったのか聞いてみた。皆さんにとって、2023年が良い年になりますように。

Q1．あなたの去年1年間を、漢字1文字で表すと？

1年生は「楽」が圧倒的多数。次点は「新」、続いて「頑」「幸」「笑」という回答が多かった。1年生は楽しい高校生活が始まったことが大きく影響しているとみられる。2年生も「楽」が大多数で、「忙」「頑」が続く。慣れてきた高校生活での心境が多く寄せられた。3年生で多かったのは、やはり「忙」「学」「努」。多くの人が、受験のための勉強や準備に忙しい1年を過ごしたようだ。

【その他】

「凌」苦しいことが多かった反面、今少しずつ乗り越えていけている（1年）
「変」環境の変化、義務教育終わって1年（1年）
「真」真剣に勉強や部活動に挑んだから（1年）
「充」充実した年だったから（2年）
「挑」いろんなことに挑戦したから（2年）
「嬉」研修旅行に行けたから（2年）
「伸」いろいろなことが上達して伸びたから（2年）
「絆」行事でクラスの人との関わりがあってたくさんの人と絆が深まったから（2年）
「論」受験や将来について沢山論じた1年だった（3年）
「知」言語、文化、社会のことについて知識を構築した（3年）

【先生編】

「破」コロナ禍で停滞していた教育活動を通常の状態に戻すため、困難を打破したから（仲井校長先生）
「挑」新たな課題に挑む1年だったから（庄司先生）
「雲」色々と悩みながら活動した1年だったから（本田先生）
「試」様々な角度から自分を試されていた1年だった（濱辺先生）
「肝」血液検査で肝機能の数値について常に気をかけていたので。（西村先生）
「変」コロナの後、ワクチンのある世界、また色々変わってきました（ワン先生）
「読」読書が楽しかったので（作農先生）
「幸」幸せを感じることの多い一年だったから（高道先生）
「新」新しい業務に関わり新しいことを多く学んだから（中山哲先生）
「揺」当たり前のことが揺らいだ（岩田先生）

Q2．去年、いちばん頑張ったことを教えてください

1、2年生の多くが「勉強」、「部活」、3年生は「勉強」、「部活」、「受験」が多かった。どの学年も勉強と部活に勤しんでいることがわかり、3年生はそれに加え、受験に懸命に挑んできたことがわかる結果となった。

【その他】

貯金（1年）
スピーチコンテスト（1年）
凡事徹底（1年）
感染症対策（1年）
友達作り（1年）
健康でいること（2年）
ボランティア活動（2年）
部活と勉強の両立（2年）
自分磨き（3年）
メンタルキープ（3年）
体育大会（3年）

【先生編】

この学校の魅力を引き出すとともに、その魅力を校内外に広く周知するよう努めたこと（仲井校長先生）
学年団の先生方と生徒の成長について考えること（庄司先生）
色々な教材を開発したり、レポートをいくつも書いたこと（川西先生）
英語ディベート（ワン先生）
パソコン操作を覚えること（高道先生）
クラス運営（中山哲先生）
語学の勉強に努めた（岩田先生）
1年生の評価が大変だった（橘川先生）
進路指導（奥澤先生）
富山マラソンをどうにか完走（完歩）すること（清田先生）
片道40km、往復80kmの毎日の通勤（本波先生）
育児（山田先生）

Q3．今年の目標を教えてください

全学年を通して「楽しい年にしたい」という意見が寄せられるとともに、「新たなことに挑戦していきたい」という前向きな回答が多かった。また、3年生では、大学での目標を掲げる声も多く寄せられた。どの学年も、多くの人が今年に期待していることがわかる。

【その他】

勉強時間を増やす（1年）
英検準1級を取る（1年）
身長を伸ばす（1年）
やったことのない新しいことに積極的に挑戦する（1年）
文武両道（1年）
平和に暮らす（1年）
なりたい自分を見つける（1年）
正しい生活習慣（2年）
志望校合格（2年）
計画通りに物事を進める（2年）
自立（3年）
立派な大人に（3年）
新聞を読む（3年）
将来の夢を実現させる（3年）

【先生編】

語学研修等の国際交流活動の正常化（仲井校長先生）
生徒が大きくJumpできる一年にすること（庄司先生）
「晴」何事にも前向きに取り組みたい（本田先生）
何事にも進んで挑戦すること（川西先生）
生活を整えること、自分を成長させること（濱辺先生）
引き続き健康維持に努める（西村先生）
心穏やかに過ごすこと（高道先生）
現2年生の進路実現に向けての準備を怠らずにやり切ること（中山哲先生）
何か一つまとまったことをやりたい（岩田先生）
〆切を守る！（橘川先生）
日本百名山16座登頂（奥澤先生）

Q4．今年はどんな年にしたいですか？

「楽しい年」、「充実した年」など、期待する声が多く寄せられた。1年生は、2年目に突入する高校生活に対して、2年生は3年生になるという期待と不安、そして3年生はこれから始まる新しい生活について、それぞれの思いを感じることができた。

多くの生徒が、今年、新たに目標を掲げて前を向いている。これからの活躍に期待したい。

【その他】

成熟と成長の年（1年）
規律正しい1年に（1年）
春から先輩としての意識を（1年）
とにかく高校生活を楽しむ1年（1年）
友達と笑顔で過ごせる1年（1年）
辛いことがあっても笑顔で（2年）
自分の信念を貫く（2年）
明確な目標を持って頑張る年（2年）
充実した大学生活（3年）
挑戦をする年（3年）
飛躍できる年（3年）
成人したので大人になれるよう頑張る年（3年）

【先生編】

年末に「やりきった！」と言える一年にしたい（仲井校長先生）
平穏無事な一年であれば…（山崎先生）
新しい景色が見たい（清田先生）
「今年1年間を漢字1文字で表すと？」と聞かれて「活」と答えられるような一年にしたいです。（本波先生）
おだやかで幸せな時間の多い一年（山田先生）
よく笑える1年にしたい（本田先生）
年男として色々と頑張ります（西村先生）
より多くのアイデアを生み出し、仕事に活かしたい（作農先生）
目標に向かってしっかりと行動する一年にしたいと思っています（高道先生）
健康第一！無事に一年を過ごしたい（橘川先生）
健康・自由・気まま（奥澤先生）

2022年の漢字に選ばれた「戦」。さて、今年はどんな年に？

英語ディベート全国18位

第17回全国高校生英語ディベート大会（全国高校英語ディベート連盟主催）が12月17・18日、新型コロナウイルス感染防止のためオンラインで開かれ、出場した本校チームは3勝1敗2分の成績で18位だった。

全国英語ディベート大会に出場した本校チーム

メンバーは、スメタンチュクアリサ（31H）、稲谷澪（31H）、黒坂颯生（32H）、高橋璃宮（33H）、市村翼（21H）、河合美春（11H）の6人。

都道府県の代表64校が出場。「日本政府は、定年制を廃止すべきである。是か非か」をテーマに、肯定派と否定派に分かれて1試合約40分間の議論を戦わせ、画面越しに意見を主張した。

稲谷さんは「大会出場に向け、強豪校とオンラインの練習試合を数多くこなした。相手チームが用いるデータから新しい視点を得ながら、傾向を予想してその都度、対策を練る練習をした」と振り返る。全国大会ではレベルの高さを痛感。「緊張からか、相手チームに圧倒されたのか、怖気付いてしまったが、チームメイトが横から声をかけてくれたり、私自身も頼られたりして、お互いに支え合えた。ディベートの良さはこういう部分にあるのではないか」と話した。

今後について稲谷さんは「今回の大会も含め、英語ディベートで培った経験は今後の人生に必ず生きる。他者を敬いながらも、現在、取り上げられている喫緊の課題を筋道立てて主張すること（しかも英語では、まさに今求められている能力）」と熱く語る。また、高橋さんも「進学先のサークルに英語ディベートがあるので、大学でも続けていきたい。さらなる英語力の向上と、ディベーターとして必要な要素をもっと身につけることを目指す」と抱負を話した。

タイの学校と姉妹校提携

本校とタイのSri Sri Nan School（ストリスリナン・スクール）との姉妹校提携調印式が12月2日、オンラインで同校と結んで行われた。

調印式に臨むストリスリナン・スクールの先生達

同校はタイ北部のナーン県にある生徒数2000人ほどの学校で、2019年12月、本校の研修旅行タイコースの生徒達が訪問した時から交流が始まっていた。本校の姉妹校として10校目となる。

調印式には同校からファンガム校長をはじめ4人の先生が出席。仲井校長先生が「両校の生徒と教師が、知識、アイデア、文化を交換する永続的な絆を作りたい。生徒の視野を広げるだけでなく、今日の世界が直面している問題にどのように対処できるかについて両校の生徒どうしで話し合いたいと考えている」と英語でスピーチし、協定書にサインした。

ストリスリナン・スクール

部説 資格取得のススメ
～能力と意欲が貴重な財産に～

資格を持っていると、その人がその分野に対して専門性が高いことを表し、就職や進学の際に有利になる。最近は、小学生や中学生でも資格取得に挑戦する人が多い。高校生であるあなたは、どうだろうか。普段の授業と並行して学習するのは大変という気持ちもあるかもしれないが、将来のことを考え、積極的にチャレンジしてはどうだろうか。

高校で取れる資格というと、英検、漢検、数検を思い浮かべる人が多い。しかし、広く知られていないだけで、これらの検定以外にも高校生が取れる資格は多い。TOEIC、TOEFLなどの英語系の試験や、日本語検定、宅地建物取引主任者、基本情報技術者、ITパスポート、MOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）、介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級）、簿記検定、電卓検定技能試験、秘書検定、ペン字検定など、多岐にわたる。

正直、マイナーな資格もあるのは事実だが、大学入試や就職の時には全国の高校生がライバルになる。そうしたライバルと差をつけるには、そんな資格を持っていれば個性として注目されるかもしれない。

具体的な例として、英語系の学部に進学したい場合を考えてみる。面接試験で単に「英語が得意だ」と言うのは、説得力は大きく変わる。資格とは自分が何をどのくらいできるかの証拠である。さらに、資格取得に挑戦しているということ自体が、その分野の勉強に意欲があることの証明にもなる。先ほどの例だと、英検1級に合格できるほどの「能力」があるということに加えて、お金を払って受検を申し込み、その対策として勉強に励んできたという「意欲」を示せるのだ。就職活動においても同じで、「パソコンが好きだから志望しました」と言うよりも、「昨年の○月にマイクロソフトオフィススペシャリストを取得しました」と言う方が何かと説得力がある。

書類審査や面接で有利になるだけではなく、入試の学科試験が免除されたり加点されたりする場合もあるため、早いうちから資格取得に挑戦するメリットは大きい。だがもちろん、そうした目先の利益のためだけが理由ではない。資格の勉強をきっかけに自分自身の能力を高め、将来就きたい職業で役に立つ知見を得るためにも、学校の授業以外の様々なことに挑戦するというのは貴重な経験となるだろう。進路に役に立つだけでなく、卒業後も社会で生きていく上で活用していくことを考え、頑張って授業との両立を目指してみては。

続・海外特派員通信
環境に恵まれ英語力向上

大坪結愛さん（22H）Fromアメリカ

毎回好評の、海外留学中の国際英語コース生による「海外特派員通信」。今回は、昨年8月からアメリカ・イリノイ州のLake Zurich High School（レイクズーリック高校）に留学している大坪結愛さん（22H）に伝えてもらう。

こんにちは。大坪結愛です。私はアメリカのイリノイ州レイクズーリックに留学中です。レイクズーリックは都心ではありませんが、アメリカの三大都市の一つであるシカゴに車で1時間弱ほどで行くことができます。夏は富山よりも涼しく過ごしやすい気温ですが、冬は寒く氷点下を下回る日もよくあります。

私が通っているレイクズーリック高校には9～12年生が通っており、生徒数は約1800人ととても大きな学校です。一つの授業は40分間で、朝8時40分から1限が始まり、3時12分に9限が終わります。授業は9限までですが、そのうちの一つは昼食の時間なので1日の授業数は8つです。次の授業までの休憩は4分間で、日本とは異なり各授業が別の教室で行われるので毎回移動する必要があります。学校自体もとても広いので4分間で次の授業の教室まで移動するのはすごく大変です。

私は、1セメスターは会計、体育、数学、自主学習、シンフォニックバンド、USヒストリー、英語、陶芸の授業を選択しました。どの授業の先生も優しく、留学生の私を気にかけてくださるので私も授業についていくことができています。レイクズーリック高校には日本人は私以外いませんが、私の他に3人の交換留学生がいます。そのうちの1人のトルコからの交換留学生の子が、登校初日に話しかけてくれたのがとても緊張していた私にとってとてもうれしかったことを覚えています。その子は英語もとても上手で、今でも私の憧れです。

私の家族はホストファザー、マザー、11歳と2歳のシスター、2匹の犬と1匹の猫です。夕食後は毎日、家族みんなで2歳のホストシスターが大好きなBlueyというアニメを見たり、ハロウィンやクリスマスの時期にはその行事にちなんだ映画を見たりします。ホストファミリーみんなが優しく、仲良くしてくださり毎日とても楽しいです。

今まで、ハロウィンやサンクスギビング、クリスマスなどの行事を経験しました。ハロウィンでは家族みんなで仮装をし、近所を歩いてお菓子をもらいました。トリック・オア・トリートは日本でもよく知られていますが、私は初めて行いました。サンクスギビングではホストファミリーの親戚が家に集まって、それぞれが持ち寄った料理を食べながらみんなで楽しく話しました。私はそこで初めてターキーやパンプキンパイ、クランベリージャムなどのサンクスギビングならではの料理をいただきました。クリスマスは当日の1か月前ほどから準備され、当日に近づくにつれて家に飾られた大きなクリスマスツリーの下にだんだんとプレゼントが増えていくので、さらに当日が楽しみになりました。当日の朝にプレゼントを家族みんなで一緒に開けるのがすごく盛り上がりました。どの行事も初めてなことばかりですごく楽しかったし、本場の行事に参加できたのもとても良い思い出になりました。

私は高校のシンフォニックバンドのメンバーで、年に3回ほど行われるコンサートのために練習しています。ここに来てから言語の壁を感じることはありますが音楽にはそれがないので、バンドを通して多くの生徒と仲良くなることができました。そしてシンフォニックバンドの先生がペップバンドという、演奏をしながらスポーツの試合を応援するバンドにも招待してくださったので、ウィンタースポーツのペップバンドにも参加しています。これも初めての経験ですが、演奏で自分の高校を応援できるのはすごくやりがいがあります。中学校からの楽器経験をここで生かすことができているのもうれしいです。

今でも自分の英語力が足りないと思う場面もありますが、ホストファミリーや友達、先生、学校の授業のおかげで少しずつ英語力が向上していると感じ、周りの環境にも恵まれて充実した留学生活を送ることができています。残り約5か月間の留学ですが、今ここにいられるのは両親のおかげであることを忘れず、日本に帰ってきた時に良い報告ができるように一日一日を大切に過ごしたいです。

ハロウィン当日に家族みんなで（大坪さんは右から2人目）

かざぐるま

皆さんは「朝活」を知っているだろうか。朝活とは、朝早く起きて、登校前などの時間帯に趣味やスポーツ、勉強など、さまざまな活動に取り組むことだ。ジョギングやストレッチ、ヨガ、瞑想などで心身の状態を整えたり、英会話や資格試験の勉強、読書などをしたりと、ストレス解消や自己研鑽を求めて行われる★そんな朝活には、2つの大きなメリットがある。まず1つ目は、心に余裕が生まれることだ。朝といえば何かと慌ただしいものだが、朝活を始めると、早起きした分だけスケジュールにゆとりが生まれ、落ち着いて1日のスタートを切ることができる。今日自分がするべきことは何か、仕事の優先順位をどうつけるべきかなどを、朝ゆっくりと考えてから活動を始めると、余裕を持って1日を過ごすことができる★2つ目のメリットは、健康的な生活習慣が身につくことだ。早起きをすると、夜は自然と早い時間帯に眠くなる。したがって夜更かしが減り、夜型の生活から朝型の生活へと変わっていき、安定して規則正しい生活を送れるようになるのだ。しかし、朝活のために無理に早起きをしようとしたり、睡眠時間を削ったりすることは、大きなストレスになるので注意するべきだ★うまく続けられれば良いことだらけの朝活だが、毎朝継続することには困難が伴う。なかなか続けられないという人も多いだろう。だが、普段より少し早起きして30分、やりたいことをするだけでも、脳が目覚め十分な朝活になる。進級や卒業を控え、これから忙しくなっていく学生こそ、この朝活で心と身体の健康を手に入れよう。【村野魁例】

特集

2年生 研修旅行

各コースで実りある体験

2年生は12月17日から、国内３コースに分かれて研修旅行に出かけた。今回のコースと参加人数は、関東40人、九州131人、沖縄37人。今回は残念ながら海外コースがなくなってしまったが、研修に向けてコースごとに事前学習に取り組んでから出発。各コースとも、実りある研修になったようだ。各コースに参加した新聞部員（＋α）による紀行文と写真を掲載する。

関東コース

12／17
富山駅－（かがやき502号）→上野駅→浅草寺見学／昼食→浅草演芸ホールで寄席鑑賞体験→チームラボ／ボーダレス→ホテル

12／18
ホテル→東京都内班別研修→ホテル集合→東京湾ディナークルーズ→ホテル

12／19
ホテル→東京スカイツリー→スモールワールズ東京→椿山荘でのテーブルマナー→ホテル

12／20
ホテル→横浜大世界　中華街散策→肉まん餃子作り体験→東京駅－（はくたか569号）→富山駅

古く新しい街・浅草

研修旅行の良いところは、旅行業者がプランを立ててくれるので普段行かない自分の興味の外にある場所へ連れて行ってくれる点だ。特に1日目に行った浅草が良かった。友達と行くなら多分行かないであろうその場所は、多くの観光客が集まる「観る街・買う街・食べる街、そして遊んで泊まる街」だった。

「浅草」というと雷門を象徴とする日本の江戸の風景が連想される。人形焼だとか着物のお店だとかそういったものばかり並んでいると思っていたが、門をくぐると想像とは全く違っていた。お店の作りは日本家屋風のものがほとんどなのに、陳列されている商品はクレープだったり、ハローキティのグッズだったりと外装と内装がチグハグなものが多かった。この異様な光景に疑問を持ったが、浅草を散策するうちにこのチグハグが意図的なものだとわかった。その日はちょうど土曜ということもあり観光客が多く、7割ほどが外国人や小さな子どもがいる家族連れだった。そして、キャラクターグッズなどが置いてあるお店に入るのは外国人や子連れの家族がほとんどだった。つまりこのチグハグは、浅草の象徴となる雷門や江戸の日本らしさを崩さない外観を保ちつつ、訪れる観光客の客層をマーケティングした結果である。歴史的景観を残しつつ観光都市としての役割を果たしている実例をこの目で見られたことをうれしく思い、同時に富山の観光地にも生かせないかと考えた。

富山にある観光地は中年層、老年層が客の6、7割を占めている。つまり今後の課題は、未成年、若年層の観光客を増やすことだ。これは浅草で見られた、写真映えする食べ歩きのできる飲食店や小さい子が楽しめるようなキャラクターグッズの採用などで解決できるのではないだろうか。

この研修旅行では富山では見られなかった観光地の形を見ることができ考えさせられることが多く、富山の観光資源をもっと世界に広められる可能性を垣間見た気がした。【柳澤和音実】

浅草仲見世通りを歩く生徒達

横浜で中華文化体験

最終日には、横浜中華街を散策した。横浜中華街には約600軒以上の店が並んでいるという。大きな門をくぐると、中華料理店などが多く見られ、多くの人で賑わっていた。

まず、横浜中華街最大の商業施設、横浜大世界にある「アートリックミュージアム」を見学した。4～8階すべてで錯覚を利用したトリックアートが多数展示されている。恐竜や大ダコに襲われたり、宙に浮いたり、名画に迷い込んだり、摩訶不思議でユニークなアートを見て、錯視錯覚の世界を楽しんだ。また、錯覚を利用したフォトスポットがたくさんあり、友達と一緒に写真を撮っている姿が多く見られた。見て、体感して、写真を撮って、トリックアートの魅力に大いに触れることができた。

その後、揚州飯店本店に移動し、肉まん・餃子作り体験を行った。揚州飯店本店は1952年創業。横浜中華街で本場上海料理を中心に、四大中国料理を提供している歴史あるお店だ。店員さんに教えていただきながら、自分だけの肉まんと餃子を作ることができた。餃子の皮は、職人さんが毎日1枚1枚作っているため、家庭で作る餃子とは違い水を使わずに包むことができるそうだ。生地で餡を包み込むことに苦戦したが、自分で作った肉まんと餃子は生地がもちもちで美味しかった。他にも、海老のチリソースや炒飯、杏仁豆腐など本格的な中華料理が振る舞われ、美味しい昼食を楽しんだ。肉まんと餃子が蒸し上がるまでの時間には中国語教室が開かれ、基本の会話や数字などの発音を学んだ。発音の仕方が似ている言葉や難しい発音の言葉が多く苦労したが、楽しみながら中国語を学ぶことができた。様々な体験ができ、また、中華文化の世界観を感じることができて楽しかった。【藤田実呼】

横浜中華街の関帝廟で

九州コース

12／17
富山駅－（つるぎ701号）→金沢駅－（サンダーバード６号）→京都駅－（のぞみ９号）→博多駅→ハウステンボス→ホテル

12／18
ホテル→西海国立公園九十九島→長崎駅→長崎市内自由観光・研修→長崎駅集合→長崎アザレア園田真珠→ホテル

12／19
ホテル→Ａ班　体験（かぶと岩天望所）／Ｂ班　道の駅大津→日本リモナイト　SDGs熊本・阿蘇研修プログラム→Ａ班　ビュッフェレストランぎんなん／Ｂ班　体験（かぶと岩天望所）→ホテル

12／20
ホテル→熊本城　見学・桜の馬場城彩苑　桜の小路→太宰府天満宮→博多駅－（のぞみ40号）→新大阪駅－（サンダーバード37号）→金沢駅－（つるぎ726号）→富山駅

長崎の街　満喫

6時に富山駅を出発し、交通機関を乗り継いで8時間の長旅で博多駅に到着。バスでである佐世保バーガーを堪能し、2時間半ほどでハウステンボスに到着した。訪れるのが初めてという生徒がほとんどで、ヨーロッパのような外観と自然が調和した街並みを楽しんだ。アトラクションやお土産、さらにはカチューシャなどを着けている生徒も見られ、十分に満喫している様子だった。そして夜になると「光の王国」と呼ばれるイルミネーションで園内は華やかで煌びやかな雰囲気に。夕食は各自、パーク内でとり、佐世保市内のホテルで眠りについた。

2日目は佐世保市の西海国立公園九十九島を訪れた後に平和公園へ。その後、長崎市内を自由研修・観光。最初に訪れた西海国立公園は九十九島を見渡すことができる佐世保市を代表するインスタ映えスポット。富山では絶対に見ることのできない景色をたくさんの生徒が写真に収めていた。次に訪れた平和公園は悲惨な戦争を二度と繰り返さないという誓いと、世界恒久平和への願いを込めて作られたものだ。戦争の悲惨さを改めて考える良い機会となったのではないだろうか。自由研修・観光では事前に計画していた場所へ行き長崎市内を満喫。人気だったのは新中華街で、長崎名物である長崎ちゃんぽんなどの中華料理を堪能した。長崎駅内では旅行支援クーポンでお土産を購入する生徒の姿が多く、様々なお土産がある中で特に人気だったのがカステラ。帰りのバスではカステラの紙袋を持つ生徒がたくさん見られた。夕食は長崎アザレア園田真珠で友人との楽しい夕食をとった。本来であれば夕食後に稲佐山からの夜景を見る予定で、たくさんの生徒が楽しみにしていたが、あいにくの雨で変更になりホテルで友人との時間を過ごした。2日目は分宿し、次の日の活動に向け体を休めた。【花岡菜穂】

長崎の九十九島観光公園で

たくさんの生徒が楽しみにしていたハウステンボスへ。バスの中では、佐世保市の名物

阿蘇の大自然に驚嘆

3日目は阿蘇山に行き、ハイキングを30分ほどしながらクイズを楽しんだ。気温マイナス4℃の中、みんなで話し合いながら答えを導いたので知識も増え、充実した時間となった。ハイキングの後は雪道をマウンテンバイクで走った。中級組と上級組の二つに分かれて行ったが、全自動のマウンテンバイクに乗るのは初めてという生徒が多く、とても興奮して楽しんでいた。

次に株式会社日本リモナイトで「SDGsプログラム」を実施し、SDGsについて学んだ。まず、鉄の味がする地下水に普通のお茶を混ぜるとどうなるか、実験。お茶にはタンニンという鉄の味が消える成分が入っており、消える前と消えた後の2つを飲み比べて多くの生徒が驚いていた。続いて、阿蘇の大自然が生んだリモナイトと呼ばれる鉄を多く含む褐鉄鉱をフライパンで熱し、ベンガラ（酸化第二鉄を主成分とする赤色顔料・研磨剤の1つ）を作る体験をした。熱していくとどんどん色が変わっていくのを見て、生徒達は目を輝かせていた。1日中動き回った後は、A班はビュッフェレストランで、B班はホテルで夕食をとった。疲れた体に美味しいご飯を食べて幸せそうだった。

最終日。最初は熊本城見学をした。4日間の中で一番天気が良く、城がとても映えていた。まだ工事中だったため城が見える公園で集合写真を撮った。その後は自由行動になり、桜の馬場城彩苑「桜の小路」で各自、お土産選びや食べ歩きを楽しんだ。そして研修旅行最後の日程は、学問・至誠・厄除けの神様である太宰府天満宮。お守りを買う人、おみくじを引く人、お詣りをする人、それぞれの方法で太宰府天満宮を堪能した後は、参道でのお土産選びを楽しんだ。その後はお昼過ぎから夜までずっと富山に帰る移動で、疲れて寝ている人が大半だったが、帰りたくないと嘆く生徒も見られた。

コロナ禍で制限されてきた学校生活のなか、研修旅行で行ったことのない場所に行くことができ、みんな満足そうな顔をしていた。【北岡夏海】

阿蘇山の雪道をマウンテンバイクで走る生徒達

沖縄コース

12／17
学校→小松空港－（JTA37便）→那覇空港→ホテル

12／18
ホテル→平和祈念公園→ひめゆりの塔→本部港－（フェリー）→伊江島（民泊）

12／19
各家庭で民泊体験プログラム

12／20
各家庭→伊江島港－（フェリー）→本部港→美ら海水族館→フクギ並木散策→今帰仁城跡→ナゴパイナップルパーク→万座毛（サンセット見学）→ホテル

12／21
ホテル→首里城（守礼門）→那覇空港－（JTA36便）→小松空港→学校

民泊で貴重な体験

私は今回の沖縄研修旅行で、文化、歴史、街の建築様式、現地の食など沖縄でしかできない経験をたくさんすることができました。その中でも私が一番印象に残っているものは伊江島の民泊体験です。民泊でお世話になった山城さんから、最初にハブを生育している施設に連れて行ってもらい、ハブを間近で見ることができました。12月の比較的涼しい季節はハブは活発に活動を行わず、木の上でじっとしていました。また、ハブの餌であるネズミも多く生育されていたので、あまりの多さに驚きが隠せませんでした。

民泊先では3つの楽器を使って1つの曲を演奏し、最終日に発表しました。私は三味線を担当し、演奏しながら歌うという重要な役割を担当しました。私は音楽の授業で三味線を弾いた経験があったため弾くところではあまりつまずきませんでしたが、歌いながら演奏してみると二つのことに集中しなければならず、思うようにできませんでした。しかし、数をこなして練習していくうちにだんだん形が整ってきました。また、他のパートとの合わせ練習も最初は流れが分からず、全然揃っていませんでしたが、数を重ねるごとにだんだん揃うようになっていき曲にまとまりができてきました。私は民泊で音楽の文化について学びながら、二つのことを合わせてやることの難しさと、グループの皆と協力して一つのものを作り上げた時の達成感を味わうことができ非常にいい経験になり、曲の仕上がりがとても良いと山城さんから褒められた時はとてもうれしかったです。

山城さんに農業体験もさせてもらいました。その中で私は、畑に散乱している岩石を拾い集める仕事をしました。石が散乱しているままだと農作物が育たないので、小さな石もしっかりと拾い集めました。山城さんは広い畑にある石を毎年拾い集めていると考えると驚きでした。その他にも、タコライスやソーキそばなど沖縄を代表する料理を食べることができ、とても貴重な経験をさせてもらいました。【SS】

伊江島の民家で三味線を教わる生徒達

平和の尊さ痛感

この研修旅行は私にとってとても学びが多いものになりました。私が特に印象に残ったのは、平和祈念公園と民泊です。これらが私を変えさせてくれ、より考えさせられました。

まず、平和祈念公園でガイドさんの話を聞いていると、苦しんでいる方々の顔が目に浮かび心を動かされました。また、資料館の近くの大きなガマを見て、殺されないように息を殺して何日間もこの場所にいたと思うと鳥肌が立ちました。資料館には戦死した人の写真があり、見ているだけで泣きそうになりました。こんなにたくさんのまだ幼い子ども達の命が一瞬で奪われ、本当に心から悲しく辛い世の中だったのだと強く感じました。当時を想像させられる物や実際に使われていた物が展示されていたり、ガマの中の様子が再現されてあったり、生き延びた方々のお話の映像を流してあったりと、より実感させられて怖くなりました。これからもっと戦争について積極的に学び、未来にも伝えていくべきだと思いました。

次に、伊江島での民泊でたくさんの体験や経験をさせていただきました。初日から民家の方がドライブで色々なところに連れていってくださり、事細かく体験させていただいてこれからの民泊が楽しみでワクワクしていました。そして食事がとても美味しく、毎回楽しみでした。沖縄の名物のものや民家で作られた落花生のじーまみどうふ、ゴーヤチャンプルー、ヘチマの胡麻和え、沖縄そばやもずくなど、どれもとても美味しかったです。また、サーターアンダギーづくりや沖縄の伝統着物の着付け体験、城山登山などたくさんの体験を通して、仲間との絆が深まりたくさんの良い思い出ができました。

もう少し長く沖縄で過ごしたいと思うくらい、4泊5日は私にとっては短い時間でしたが、ものすごく素敵な思い出であふれ、絶対に忘れないものになりました。次はプライベートな旅行で行き、伊江島のおじい、おばあに会いたいです。とても充実した忘れられない研修旅行になり、たくさん宝物ができて最高でした。【HK】

平和祈念公園の「平和の礎」を見学する生徒達